令和6年度　施設評価表

認定こども園般若野保育園

1.本園の理念、教育・保育目標

◎子ども1人1人を大切にし、保護者から信頼され地域に愛される教育・保育をめざす
　〇未来を担う子どもたちの豊かな人間性を育てる
　・心身ともに健康な子どもを育てる　　・思いやりのある子どもを育てる　　・自分で考え行動する子どもを育てる

2.本年度に取り組む重点事項

◎職員のチームワークづくり（職員構成が変わったため、チームの連携を再構築する。）
　・チームとして目標を持ち（教育・保育の中で大切にする視点）、教育・保育に取り組む
◎子どもの育ちを保護者と共有するための機会や日常保育の情報発信を行う。

3.評価項目の達成及び取り組み内容と評価

評価項目	取組内容	取組状況	評価	来年度に向けての課題
教育・保育課程	教育・保育課程の編成・実施に関して職員間の共通理解をはかる。	教育・保育課程を可視化し、保育日誌等に添付している。 職員会議等で一緒に暗唱するなど確認している。	B	保育教諭チームに関しては、内容の理解は深まってきているが、給食チームとの共通理解を引き続き図っていく必要がある。
発達過程に応じた教育・保育	未満児クラス・以上児クラスの運営の成果と課題を報告する。	毎月、運営成果と課題を報告し合い、運営の改善を目指した。	A	各年齢の現状を把握し、特徴や発達過程、個人差を踏まえ、教育・保育を日々改善しながら進めていく。 子どもが主体的に活動できる環境作りを引き続き努力を重ねていく。
研修体制	教育・保育の質向上のために、園内研修を実施し、園外研修にも積極的に参加する。	チームとしての質を向上させるため目標を掲げ可視化することにより、意識を高める環境づくりに努めた。また、園外研修（対面及びZOOM研修）は多くの職員が参加し、教育・保育の質を高める努力をした。	A	職員全員が研修に参加できる方法を考え、進めていく。ZOOM研修は非常勤職員が受けやすいので引き続き研修参加を呼びかけていく。 外部研修においては精査を重ね、必要な研修に参加できる方法を考え進めていく。
特別支援教育	特別支援教育の理解を深め、該当児に個別の配慮をしながら、発達の支援をする。 専門機関との密な連携を図る。 家庭との連携を図る。	ハートフル保育カウンセラーから、該当児の発達支援について学んだ。 該当児の対応については、連携機関・家庭・園との協働により個別の配慮ができるようにした。	A	保護者や連携機関と情報共有を行いながら、個別の対応を継続していく。
小学校接続	小学校へのスムーズな接続が図れるような工夫や取り組みを積極的に行う。 幼保小連携研修に参加する。	散歩、小学校行事を通して交流及び情報交換を行った。 小学校教諭の給食参観では、入学する園児の様子を実際に見て共有を図った。	B	地区の学校・保育園で話し合う機会を設け、小学校接続について理解を深めていく。
健康・安全管理	職員の健康・安全管理の意識を高める。 日常における感染対策を自主的に行う。 災害発生時の安全確保のための通報・避難方法を共有し、訓練を行う。 食育計画の作成と実践を行う。	職員間で連携しながら、衛生管理の徹底を心がけた。感染症に関しては早期対応を行い、即情報を開示し、保護者に伝えた。 安全計画に基づき訓練を行っている。 子どもたちの様子をみながら、調理員が主となり保育教諭と共有しながら食育計画を実践した。	B	引き続き衛生管理を徹底していく。 災害訓練は様々なパターンを考え、状況に応じた避難ができるようにしていく。 食育計画の実践に関しては、調理員が積極的に現場に出て子どもと関わり、主となって食育を進めていく。
職員間の連携	担任外保育教諭間の連携、他種職員との連携を積極的に行う。	行事や日々の教育・保育を通して協働体制を取っている。職員会議等でも話し合いを通して意思疎通を図っている。	B	保育教諭チーム間の連携はとれているが、給食チームとの連携が芳しくない。伝達方法を工夫し、連携が上手くとれるようにしていく。 各々がチームの一員として主体的に関わるようにしていく。
保護者との連携	個人懇談や送迎時での口頭伝達、日々の連絡帳を通してコミュニケーションを図る。 日々の子どもの活動の様子を写真などで伝える。	個人懇談や送迎時での口頭伝達、日々の連絡帳を通して思いを共有しながら子どもの成長に繋がるよう努力をしている。 ドキュメンテーションを玄関に掲示し、教育・保育の取り組みを知らせている。	B	保護者と個々の子どもに対する思いを共有し、より良い成長を目指していく。 調理員も積極的にコミュニケーションをとり、食事の様子（離乳食の進み具合等）やレシピ紹介等保護者に伝えていく。
地域との連携	地域にある老人ホームや障害者支援施設との交流を図る。 未就園児対象のふれあいひろばを行う。 HP等・行事の案内を園から情報発信を行う。	地域にある老人施設や障害者支援施設利用者との直接の交流が復活してきた。 園に遊びに来てもらい、担当職員や園児と一緒に遊んだり、子育ての悩みを聞いたりしている。 毎月HP更新を行い情報開示している。	B	少しずつ交流が増えてきているため、できるだけ地域ニーズに応えていく。 未就園児保護者ニーズを聞き取りながら臨機応変に対応していく。 少子化が進んできているため地区外への情報発信についても考えていく。

A：優れている　　B：普通　　C：やや努力が必要　　D：努力が必要